見どころ

芸術と文化の杜・上野

天正 18 年、徳川家康の江戸入府後、家康は浅草寺を祈願所に、芝の増上寺を菩提寺に定め、三代将軍・家光になって、江戸城鎮護のための祈願所の創建が進められます。これを命じられた天海僧正は、京都御所と琵琶湖、鬼門を守る比叡山の位置関係を江戸城と不忍池、上野の山に見立て、東の比叡山として「東叡山寛永寺」を創建します。後には趣意が変わって徳川家の菩提寺になりますが、山の下にも町が造られ、門前町として賑わうようになりました。

上野の山に広がった寛永寺の伽藍は、幕末の戊辰戦争により多くが焼失してしまいます。明治政府は、焼け跡となったこの地に病院建設を計画していましたが、オランダ人軍医・ボードワンの進言により計画が変更、上野の山が日本最初の都市公園に指定されます。明治 10 年、第 1 回内国勧業博覧会が開催、以後第 3 回まで開かれ、会場跡には、美術館、博物館、動物園、美術学校や音楽学校などが次々と設立し、芸術・文化の拠点の様相を呈すようになります。

東叡山寛永寺

「上野の山文化ゾーン」全景

上野公園噴水広場

西郷隆盛像

また、上野公園に隣接する谷中地域は、寛永寺の創建に伴う寺院の建立や江戸幕府の政策により、神田付近から多くの寺院が移転、寺町を形成し発展してきました。震災や戦災の影響が比較的少なかったため、昔ながらの街並みや建造物が残され、寺町としての風情を今に伝えています。

谷中霊園

谷中の街並み

あかじ坂

築地塀

これら“寛永寺・上野公園、谷中の街並み”地域は、次世代に継承すべき美しい歴史的風土を形成している地域として、「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選ばれました。

芸能と庶民文化の一大中心地・浅草

７世紀に建てられた浅草寺。推古天皇 36 年、地元の漁師が宮戸川（隅田川下流）で聖観音を引き上げたことが縁起とされ、これが今に伝わる浅草寺の本尊です。

古くより、多くの参拝客で賑わっていた浅草寺は、江戸期に入ると境内に見世物小屋が軒を並べ、また、明暦の大火以後には、浅草寺の裏手に遊里が生まれ、猿若三座の名で知られる芝居町もつくられるなど、浅草は江戸庶民の娯楽を集めた盛り場として賑わうようになりました。

明治期に入り、境内が公園地として整備され「浅草六区」が誕生し、奥山芝居小屋、見世物小屋は公園六区興行街へと引き継がれ、映画街の代名詞として多くの人々に親しまれるようになります。大正期に至っては、映画などの興行場と浅草十二階と呼ばれた凌雲閣が人気を博し、「浅草オペラ」が、広く大衆に愛されることとなりました。

明治期の浅草公園
（江戸ネット所蔵）

オペラ館
（浅草文庫提供）

帝国館
（浅草文庫提供）

遊楽館
（浅草文庫提供）

大正 12 年の関東大震災により凌雲閣は崩壊、浅草地区では、全域に近い 92.8%が焼失するなど、壊滅的な被害を受けました。しかし翌年には、興業街や映画街の各館が再建され、活力に満ちた街としてめざましい復興を遂げました。

震災復興後の仲見世
（「帝都復興記念帖」所載）

昭和期の浅草六区

終戦後の仲見世
（江戸ネット所蔵）

江戸随一の盛り場であった浅草は、江戸以来の演劇娯楽のメッカとして発展し、芸能と庶民文化の一大中心地として栄え、固有の歴史と文化に育まれた日本を代表する国際的な観光拠点となっています。

文化施設・観光スポット

朝倉彫塑館

旧吉田屋酒店

大名時計博物館

恩賜上野動物園

平櫛田中邸

寛永寺五重塔

寛永寺清水観音堂

上野東照宮

黒田記念館

旧東京音楽学校奏楽堂

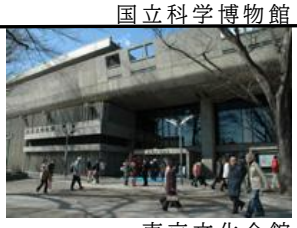
国立国際子ども図書館

国立科学博物館

東京国立博物館

東京国立博物館表慶館

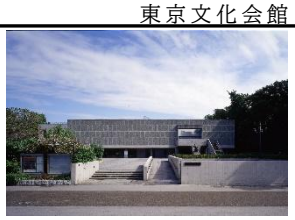
日本藝術院


東京文化会館

東京都美術館

上野の森美術館

東京都立旧岩崎庭園


国立西洋美術館

したまちミュージアム

横山大観記念館

不忍池ボート乗場

不忍池弁天堂

東京初の世界文化遺産　国立西洋美術館

国立西洋美術館は、20 世紀の建築や都市計画に大きな影響を与えた建築家ル・コルビュジエの設計した東アジアで唯一の作品です。平成 28 年 7 月、国立西洋美術館を構成資産に含む「ル・コルビュジエの建築作品―近代建築運動への顕著な貢献―」が世界文化遺産に登録され、国立西洋美術館は、東京で初めての世界文化遺産となりました。

書道博物館

子規庵

ねぎし三平堂

台東アートギャラリー

一葉記念館

皮革産業資料館

池波正太郎記念文庫

太鼓館

江戸たいとう伝統工芸館

花やしき

浅草演芸ホール

日本文具資料館

浅草寺雷門

浅草寺五重塔

浅草公会堂・スターの広場

袋物参考館（要予約）

世界のカバン博物館

六区ブロードウェイ

浅草文化観光センター

隅田川水上バス